

松 緑 白 花

Vol 3 4

石垣市立石垣中学校
教 頭 市原 教孝

第 7 回全日本少年春季軟式野球大会九州大会 (宮崎県都城市)

祝 野球部全国出場！ 執念の敗者復活

全員野球で宇土鶴城(熊本)、加治木(鹿児島)に勝利。つかんだ5 枠目！



11/21(土) 10:00～ 都城市営野球場

1 回戦	石垣中 (沖 縄)	0 0 0 0 1 0 0	1
	広田中 (長 崎)	0 0 1 0 1 0 X	2
投手：翁長、下地貴－捕手：田本			

11/21(土) 14:45～ 都城市営野球場

敗者復活	鶴城中 (熊 本)	1 0 0 0 0 0 0	1
1 回戦	石垣中 (沖 縄)	0 0 0 1 4 0 X	5
投手：翁長、下地貴、下地寛－捕手：高那			

11/22(日) 10:50～ 都城市高城運動公園野球場

5 位	加治木中(鹿児島)	0 0 0 0 0 0 0	0
決定戦	石垣中 (沖 縄)	0 0 1 0 0 0 X	1
投手：翁長、下地貴、下地寛－捕手：高那			

広田中戦：0 - 1 で迎えた 5 回表。先頭の伊計が左前安打で出塁。そして苦手だった盗塁を決めた。続く渡辺が三遊間を抜き同点。その後、渡辺は 3 塁まで進塁した。暴投。逆転か？ 審判に当たる不運。直後、1 点を許してしまった。

鶴城中戦：初回の失点で 0 - 1 で迎えた 4 回、内野ゴロで同点に追いついた。5 回、亀田を 2 塁に置き、田本主将が右中間に 3 塁打を放ち逆転。さらに翁長の 2 点タイムリーで試合を決めた。

加治木中戦：高那の 2 塁打と、下地寛のタイムリーであげた虎の子の 1 点。翁長・下地貴、下地寛の 3 人の投手リレーで守り切った。祝・全国への切符。

3 試合で失点 3 「勝利の方程式」 よく投げてくれました。



翁長佳辰は安定感抜群



変幻自在の下地貴樹



炎のストッパー・下地寛太朗

大手柄!! 急造捕手・高那将喬、田本涼も渾身のフルスイング!



第1試合開始早々、主将・田本涼は、キャッチャーフライをスーパーダイビングキャッチ。ところが歓声はやがて悲鳴に。チームの大黒柱が負傷。長崎・広田中戦こそ、痛みをこらえてマスクを被り続けたが、第2試合はさすがに限界。ファーストの守備に。代って大役を任されたのが2学期に熊本から転入してきたばかりの高那将喬。

急造捕手とは思えない巧みなリードで熊本・宇土鶴城中を最小失点、鹿児島・加治木中戦にいたっては何と完封してしまった。また、この試合、3回にまわってきた打席。強振した打球はセンターへ大飛球。ボールはセンターのグラブからこぼれた。下地駿麻が送り、下地寛太郎のテキサスヒットでこの試合唯一の本塁を踏んだ。

翌日、代表を決める大一番。何と先発オーダーに田本涼の名前がなかった。相当な痛みだったのだろう。主将は3塁コーチボックスに立ち、声でみんなを支え続けた。

6回、無死1、2塁追加点の絶好のチャンス。兼松監督はベンチから出て審判に告げた。「代打・田本涼」。歓声が上がった。チームの雰囲気も最高潮。渾身のスイングはライトへ特大の飛球。好捕されたもののさすがは千両役者だ。



名将・兼松監督、実り間近の「石中野球」



「相手をみてやるんじゃない!自分たちの野球をしよう。ここがホームだと思え。」兼松監督はそう檄を飛ばして選手を送り出した。しかし、圧倒的優位に試合を進めながら、あと1本が出ず、逆にやってはならない四球やエラーで1-2の惜敗。

しかし、「広田中との敗戦は選手たちが成長するための負け。野球はそんなに甘くないということがみんなに伝わったと思う。練習してきたことを発揮するにはどうしたらいいかを考えるきっかけになるはず。」兼松監督は最初から初戦の敗北を覚悟していたかのようだ。



石中野球が目指すところ。「常に一人ひとりが一球一打、一瞬一秒、チームの勝利のために何をすべきか?」そういうチームができつつある。「九州第5位」。3試合を全力で、全員野球で戦ってつかんだ価値ある第5位だ。堂々と全国に挑もう!

檜舞台は3月の静岡。まだ時間はある。ここまでできたら、「石中野球」を完成させよう! 目指せ! 全国のてっぺん!